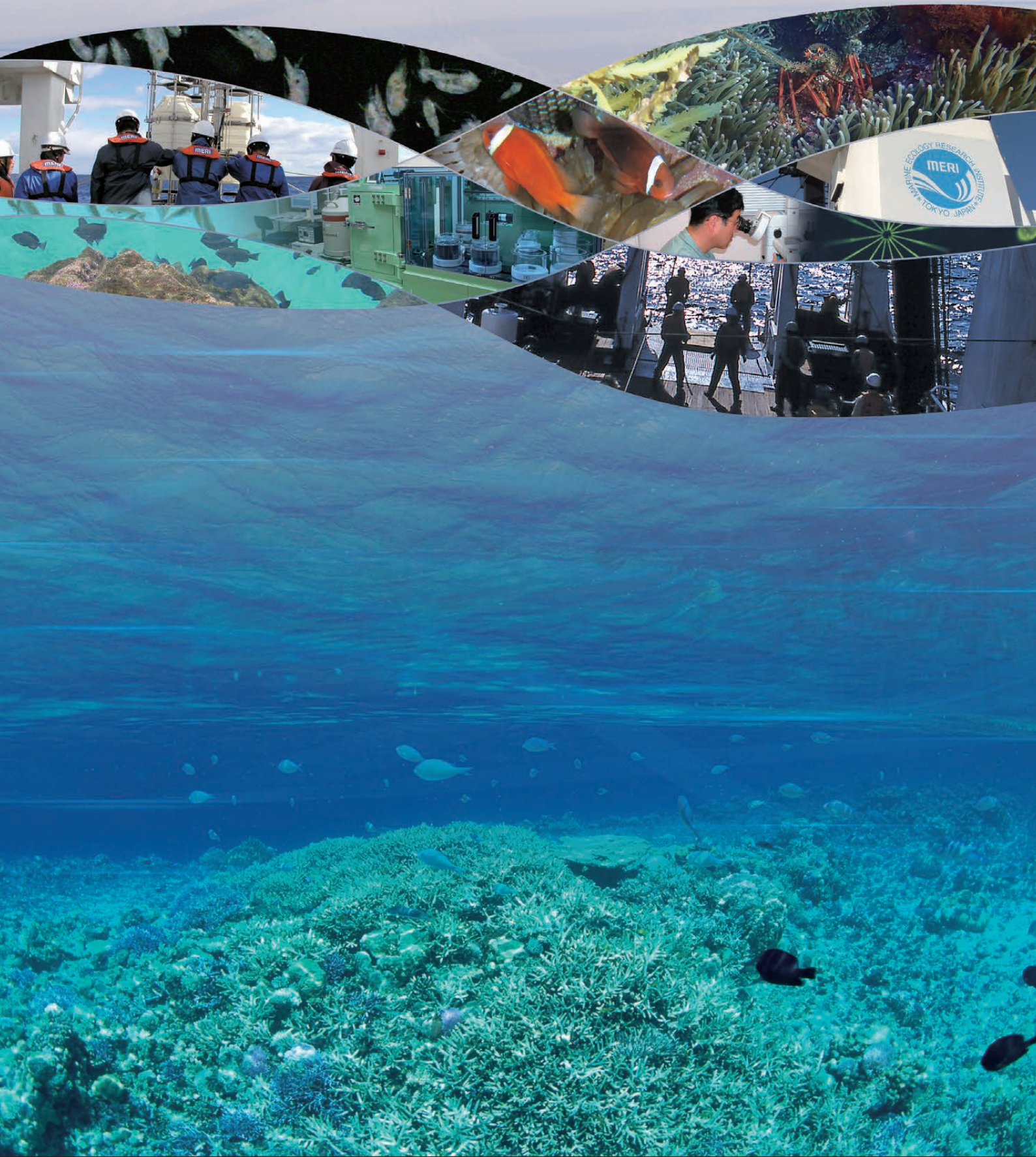




かけがえない海を未来へ—

公益財団法人

海洋生物環境研究所



海生研 設立の経緯とその後の伸展

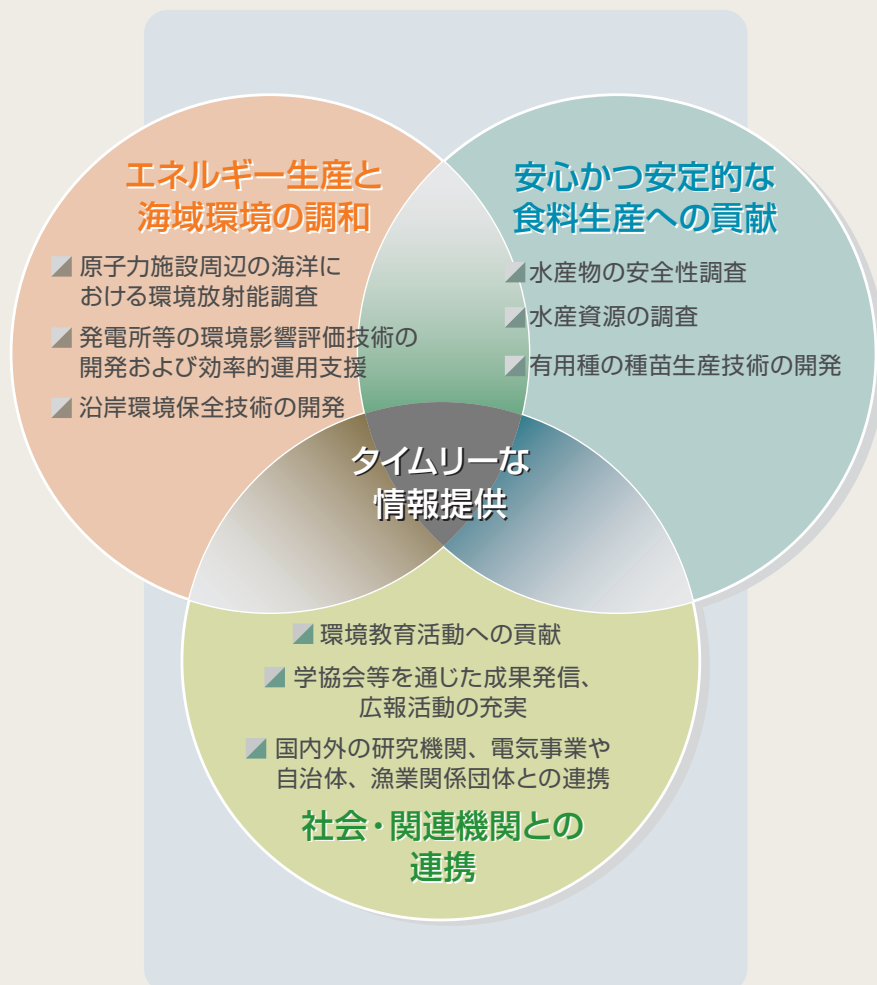
公益財団法人海洋生物環境研究所(海生研)は、発電所の取放水が海域環境や生物に与える影響を科学的に解明する調査研究機関として、当時の環境庁、農林省、通商産業省の共管のもと、1975年12月に財団法人海洋生物環境研究所として設立されました。なお、2012年4月1日には公益財団法人へ移行しました。

設立当初は、発電所の取放水口前面域で魚に発信器をつけて取放水に対する行動を追跡する、水温を様々に変化させることができる実験装置を用いて魚の行動や成長を長時間観察するなど、社会的関心の高い課題に的を絞った実証調査を推進してきました。

その後発電所の取放水のみならず、海洋における環境放射能、海域富栄養化、磯焼けなど、海産生物と海洋環境に関する幅広い調査研究に携わってきました。

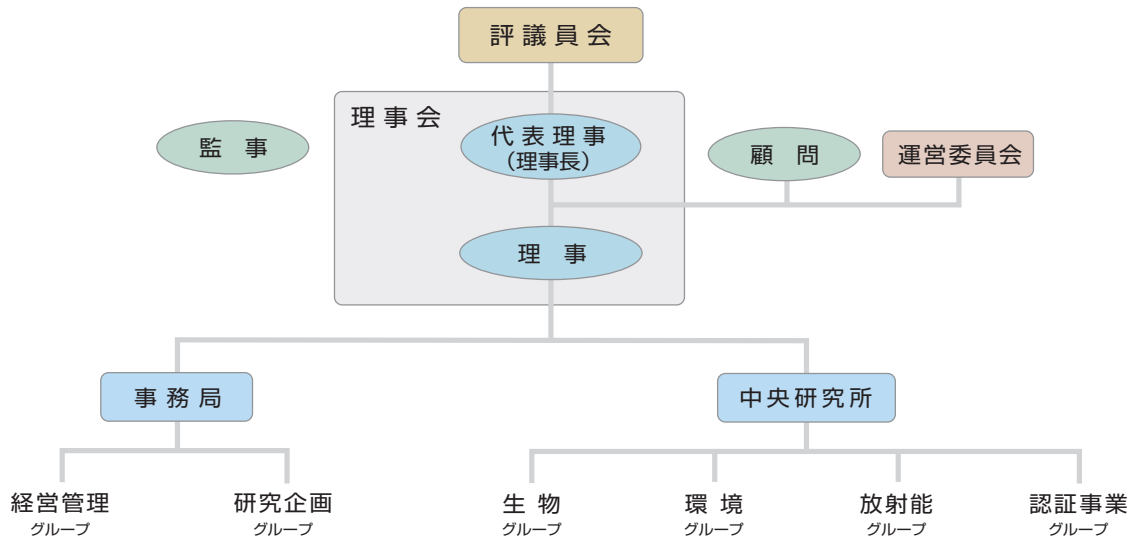
最近では、海域生態系への影響予測手法の検討や、微量化学物質の海洋環境における実態調査に加えて、地球温暖化に伴う海水温上昇、海洋酸性化などが海産生物に与える影響に関する調査研究にも着手しております。また、東日本大震災後は東日本周辺海域における海水、海底土、魚介類に含まれる放射性物質の実態調査に力を入れています。

海生研は今後とも公益財団法人として社会のニーズに応え、海域生態系と海洋環境の保全に貢献するため、研究成果を積極的に社会に還元していきたいと考えております。



組織

海生研は、研究所全体の経営管理、研究企画を行う事務局と、研究業務全般および認証業務を行う中央研究所で組織されています。



研究系	38名	(博士: 20名、技術士: 3名)
技術系	3名	
研究等総数	41名	



■ 魚類生理生態学
 ■ 無脊椎動物学・植物学
 ■ 海洋物理学・化学
■ 放射線化学
 ■ 飼育技術
 ■ その他

(2026年2月現在)

事業所

事務局本部(東京都)、中央研究所本所(千葉県)、中央研究所柏崎支所(新潟県)の3事業所を置いています。

事務局本部

東京都中央区



中央研究所柏崎支所

新潟県柏崎市

中央研究所柏崎支所は、東京電力ホールディングス(株)柏崎刈羽原子力発電所に隣接した新潟県柏崎市の沿岸にあります。

発電所が取水する海水と放出する温排水を利用した飼育試験施設があり、飼育を伴う調査研究の拠点になっています。

中央研究所本所

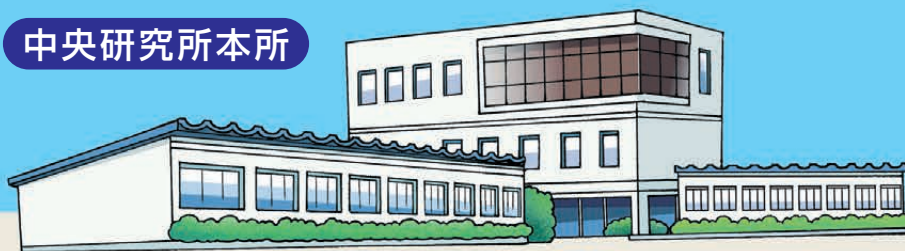
千葉県御宿町

中央研究所本所は、前面海域から清浄な海水が得られる千葉県外房沿岸の御宿にあります。

放射性核種などを測定する分析機器を備え、調査研究および認証業務の拠点になっています。



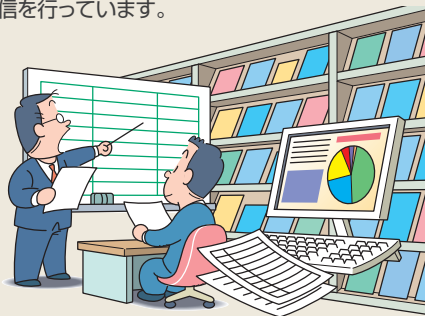
中央研究所本所



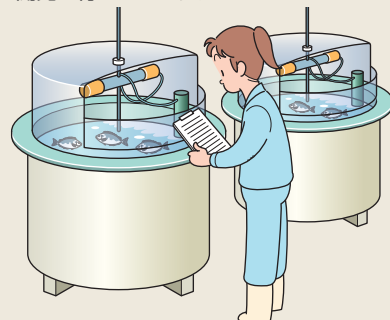
水産物などに含まれる放射性物質を測定しています。



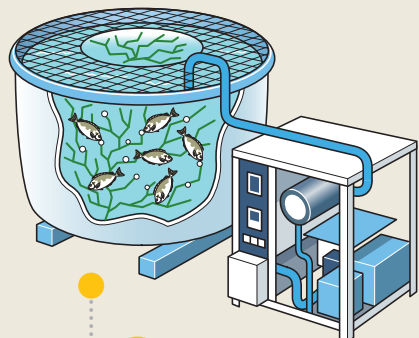
情報の収集および研究成果の発信を行っています。



実験用生物の飼育繁殖を行っています。この技術を応用して、種苗生産技術の開発を行っています。



発電所前面の海域環境・生物モニタリング調査結果の解析を行っています。

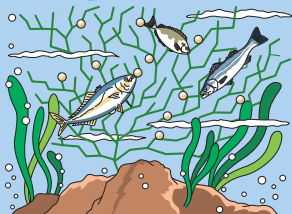


現地調査とタイアップした生物実験を行っています。

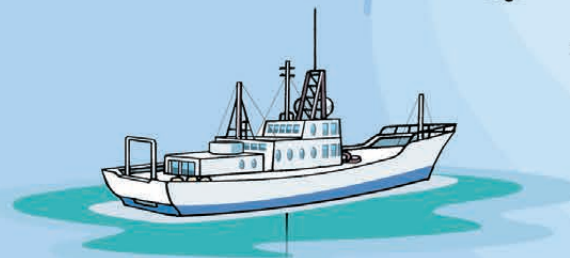


発電所内の付着生物防止に関する技術の検討を行っています。

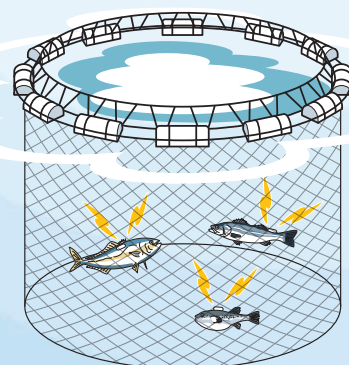
発電所の取水による生物取り込み影響の実態解明などを行っています。



原子力発電所周辺海域や原子燃料サイクル施設沖合海域に位置する主要漁場における魚介類、海底土、海水に含まれる放射性物質の調査などを行っています。



発電所前面海域における魚の追跡や生け簀を用いた実験により、魚類の行動に対する温排水の影響を調べています。



中央研究所柏崎支所



温排水資料展示館

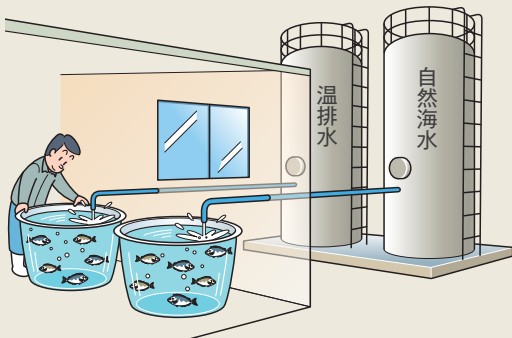
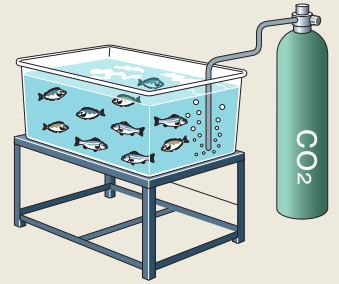


温排水を理解していただくための資料を展示しています。

化学物質の海産生物に対する影響を調べています。



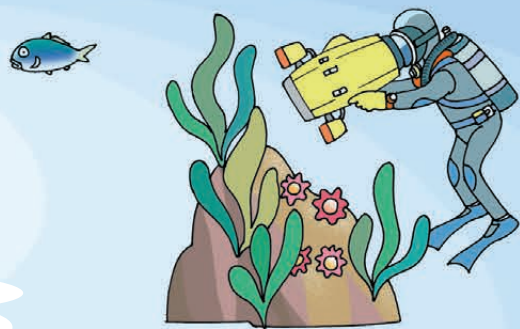
地球温暖化による海水温上昇や海洋酸性化が海産生物に与える影響についての調査研究を行っています。



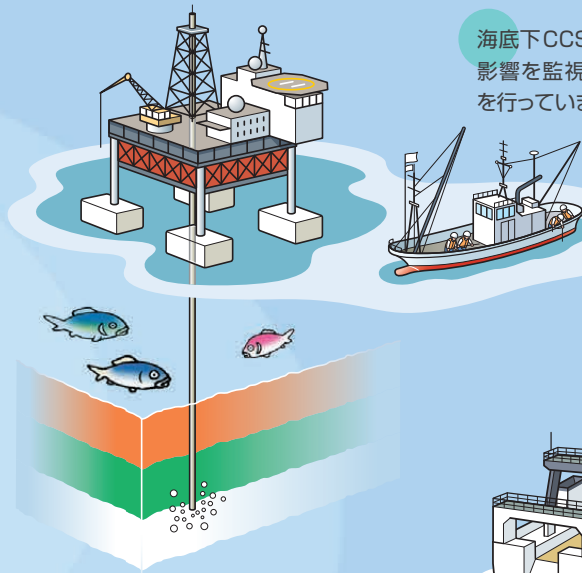
実際の温排水を用いて海産生物を長期飼育培養して成長や成熟について調べています。



海域の富栄養化や貧酸素などの問題に取り組んでいます。



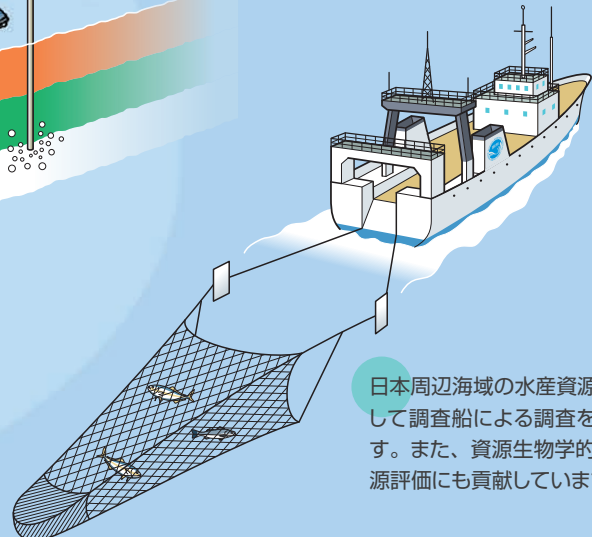
藻類、底生動物に対する温排水の影響とその範囲を調べています。



海底下CCSが海洋環境に及ぼす影響を監視するための環境調査を行っています。



洋上風力発電所の建設、稼働が海産生物や漁業に与える影響を調べるため、水中音の影響に関する実験などを行っています。



日本周辺海域の水産資源調査の一環として調査船による調査を実施しています。また、資源生物学的調査を行い資源評価にも貢献しています。

成果の普及と活用

海生研は、専門知識を活用して国や自治体、民間からの受託調査業務を行っています。また、電源立地地域の自治体や関連する機関の要請に応じて、成果の提供や技術協力などを行っています。

研究成果は、学術雑誌や「海生研研究報告」を通して公表するとともに、広報誌である「海生研ニュース」、パンフレット、ウェブサイトなどを通じて、わかりやすく内容を紹介しています。

ウェブサイトでは「海生研ニュース」や「海の豆知識」のバックナンバー、デジタル・アクアリウムでの実験魚のビデオ解説などがご覧いただけます。

URL <https://www.kaiseiken.or.jp/>

中央研究所本所のデータライブラリーでは、国内外の研究報告、学術雑誌などから、取放水関連情報や海洋生物の生態知見などを収集し、海生研の調査研究に役立てるとともに、水産業界、電力業界などの問い合わせにも応じています。

中央研究所柏崎支所に併設する温排水資料展示館では、温排水の生物影響に係る研究成果の紹介に加え、海産生物の展示、また、海洋環境や生物などについて、楽しく学べるような情報を提供しています。



地域との連携

海生研では定期的に研究施設を公開しています。飼育試験施設を含む研究設備の見学、生き物の顕微鏡観察、魚の解剖やタッチングプールなどを行うとともに、海の環境や生物に関する研究成果や情報を楽しく、分かりやすく説明しています。また、海藻押し葉しおり、オリジナルエコバッグ作製などの体験コーナーなど、海への関心を高めてもらう試みも行っております。



このほか、総合学習、職場体験学習をはじめとする教育活動や、環境保全活動などに積極的に協力することで、地域とのつながりを大切にしています。



飼育施設見学



魚の解剖



タッチングプール



総合学習



標本相談



地元イベントの開催に協力



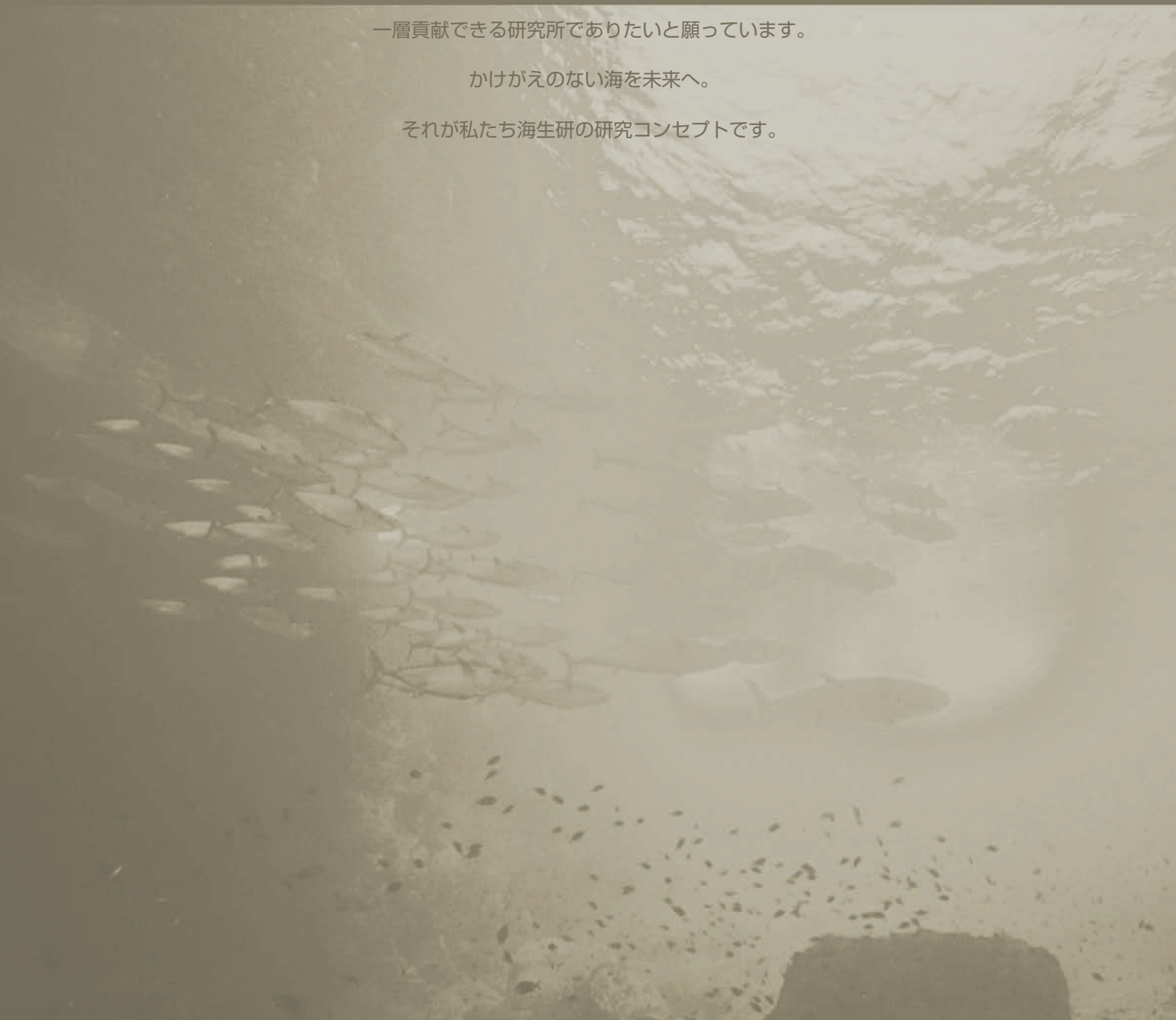
かけがえのない海。豊かな資源を育む海。

海生研は、よりよい環境づくりに

一層貢献できる研究所でありたいと願っています。

かけがえのない海を未来へ。

それが私たち海生研の研究コンセプトです。





公益財団法人 海洋生物環境研究所

<https://www.kaiseiken.or.jp/>

事務局本部

〒104-0044 東京都中央区明石町8番1号 聖路加タワー34階
TEL (03) 3545-5179 / FAX (03) 3545-5180
日比谷線「築地」駅徒歩7分、有楽町線「新富町」駅徒歩8分
東京駅八重洲口より都バス(深川車庫行)15分「聖路加病院前」下車



中央研究所本所

〒299-5105 千葉県夷隅郡御宿町岩和田300番地
TEL (0470) 68-5111 / FAX (0470) 68-5115
JR外房線「御宿」駅下車 タクシー利用(約3km)



中央研究所柏崎支所

〒945-0017 新潟県柏崎市荒浜四丁目7番17号
TEL (0257) 24-8300 / FAX (0257) 24-5576
JR柏崎駅よりタクシー約15分
バスをご利用の場合は、JR柏崎駅前より越後交通バス「柏崎-出雲崎線(2番線発)」乗車
「荒浜四丁目前」または「青山稲荷前」下車、徒歩約5分

